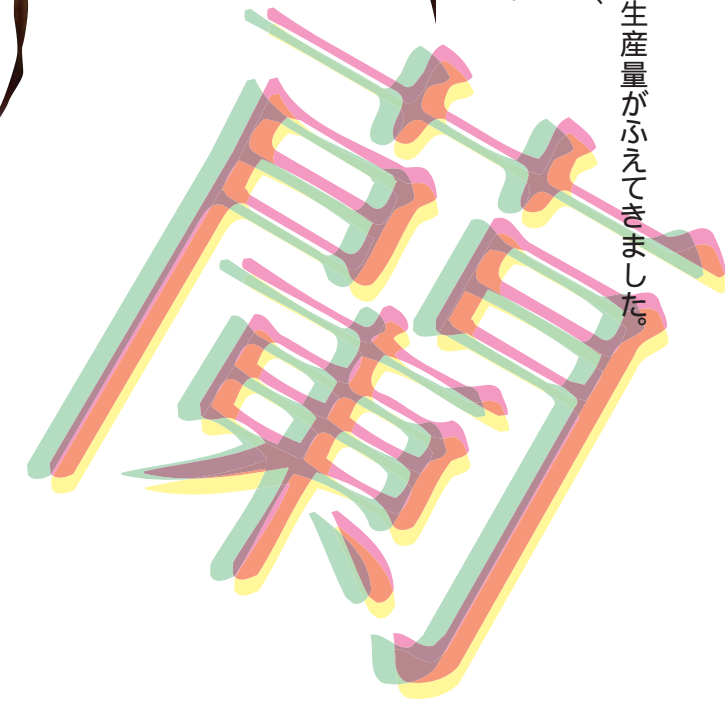


洋ラン

ORCHIDS

美しく、妖しく、魅惑的なラン。
長い間「洋ラン」は高価で栽培が難しい高嶺の花でした。
けれども今は非常に身近な花になっています。
次々に新しい園芸品種が作られ、バイオテクノロジーの発達で生産量がふえてきました。
冷暖房の普及とともに華やかな贈答品としての需要もあり、
「洋ラン」を育てている家庭が多くなりました。
植物界最大のグループの一つで、最も進化した植物であるラン。
その不思議な世界の扉をほんの少しあけてみましょう。



園芸豆図鑑Vol.14「洋ラン」

参考文献

- 「園芸植物大事典」小学館
 「世界の植物」朝日新聞社
 「NHK趣味の園芸実践作業1 覚えたい洋ランのテクニック」江尻光一・橋本清美監修 NHK出版
 「週間花百科フルール35カトレア」講談社
 「週間花百科フルール84シンビジウムと胡蝶蘭」講談社
 「NHK趣味の園芸作業12か月20デンドロビウム」江尻光一著 NHK出版
 「NHK趣味の園芸作業12か月34パフィオペデラム」江尻光一著 NHK出版
 「NHK趣味の園芸作業12か月41オンシジウム」江尻光一著 NHK出版
 「NHK趣味の園芸よくわかる栽培12か月シンビジウム」江尻光一著 NHK出版
 「NHK趣味の園芸よくわかる栽培12か月カトレア・ミニカトレア」江尻宗一著 NHK出版
 「蘭への招待」塚谷裕一著 集英社新書
 「山溪園芸ハンドブック2洋ラン」土橋豊著 山と溪谷社
 「洋ラン入門」新井清彦著 誠文堂新光社
 「洋ラン完全入門」橋本清美・石田源次郎解説 創元社
 「原種カトレア全書 オークッドバイブル1」岡田弘 広田哲也 和中雅人著 草土出版
 監修
 広田哲也(JOGA(日本洋蘭農業協同組合)正審査員・世界蘭展日本大賞組織委員及び審査員)
 写真協力
 ヒロタインターナショナルフラワー 藤沢市湘南台4-30-1
 らんの里堂ヶ島 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科2848-1
 伊豆ようらんパーク 静岡県田方郡大仁町田京195-2
 発行
 財団法人 相模原市みどりの協会
 〒228-0828神奈川県相模原市麻溝台2317-1 TEL042-777-2860
 URL <http://www.sagamihara-green.or.jp/>





多様な表情を見せ、今なお進化しつづける植物。

ランは種子植物(タネで繁殖する植物)の中で最大の植物群です。原種だけでも750属・25,000~30,000種が極地や砂漠を除く世界中に自生しています。種子植物は約25万種といわれていますが、ランは種数としては最大で10%以上を占め、シンビジウム属、カトレヤ属などの属数としてはキク科に次いで2番目に多いグループです。花粉が虫によって運ばれる虫媒花であるランは、さまざまな環境に適応していった結果、形態も生態も変化に富み、今なお進化しているといわれています。

日本には150種以上のランの自生種があります。エビネ、サギソウ、ネジバナ、キンラン、ギンラン、シラン、ウチョウラン、アツモリソウ、シュンランなどがよく知られています。

ランは世界ではOrchid(オーキッド)と呼ばれています。「洋ラン」という名は日本だけの呼び方で、西洋から日本に伝えられた熱帯原産のランを「洋ラン」と呼んでいます。日本では江戸時代からシュンラン、カンラン等シンビジウム属中心の「東洋蘭」の園芸が行われているので、それと対比したものとされます。

東洋蘭としての伝統がある「シュンラン」シンビジウム属



日本自生のラン「サギソウ」ミストンボ属



*「洋ラン」栽培の流れ

18世紀になると熱帯産のランがヨーロッパに輸入され、イギリスの王立キュー植物園の収集記録にも記載され始めました。

19世紀初め、ブラジルからイギリスに送った積荷の中に見慣れない大きな厚い葉の植物が入っていました。珍しい苔や地衣類を送る際のパッキング材料だったその植物を、ひとりの種苗家が何年も育て、ようやく花を咲かせました。その花はかつてみたことがない豪華な美しい花で、あでやかな色、華麗で複雑な花の姿、甘い香りは人々を魅了し、種苗家の名にちなんで、カトレヤと名づけられました。

カトレヤの美しさは収集熱を刺激しました。ヨーロッパの植物園芸商はラン・ハンターを南米奥地につかわし、たくさんの原種を手に入れ、ランの品種改良をはじめました。人々は夢のように美しいランに夢中になり、ヨーロッパにおいて莫大な経費がかかる温室を必要とする熱帯のランは、上流階級のステイタスシンボルになりました。

日本でも明治時代に入ると、西欧の富と繁栄の象徴として「洋ラン」カトレヤやシンビジウムなどが紹介されました。新宿御苑に温室が作られ、ラン栽培が始まりました。最初は宮廷園芸に近い形で出発し、温室を用意できる富裕な階級を中心に栽培されていきました。戦後経済発展に伴い、栽培が広がり、1960年代にメリクロン栽培が確立されると計画的に大量生産できるようになり、切花として、鉢花として急速に普及していきました。

*ランの分布の三大中心地

熱帯アジア(シンビジウム・デンドロビウム・パフィオペディラム・バンダなど)

熱帯アメリカ(カトレヤ・オンシジウム・リカステ・ミルトニアなど)

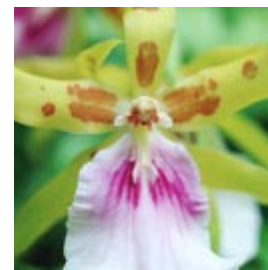
熱帯アフリカ(アングレカムなど)

熱帯といっても標高差があるので、高い山地の冷涼な所を好むランもあるし、湿度が高くて暑い所を好むランもあります。朝夕霧が発生する所、乾季と雨季がはっきりわかれている所を好むランもあります。ランを育てる場合はそれぞれの環境、性質にあわせるのが基本です。

*ランの花の特徴

ランは被子植物の中の単子葉植物に属しています。「ユリ亜綱・ラン目・ラン科」でユリ科やヒガンバナ科の仲間から進化したと考えられています。

ランは雄しべ(雄ずい)と雌しべ(雌ずい)がありません。かわりにずい柱とよばれるものがあり、これは雄ずいと雌ずいがついたものです。花は基本的には、3枚のガク片と3枚の花弁からできています。花弁の1枚が唇弁と呼ばれるものに変化し、唇弁を真中に左右対称になっています。本来上を向いている唇弁が下を向いて咲いているのもランの特徴です。またランは開花期間が長く、昆虫を誘うために香りを持つものが多くあります。



*ランでないラン

スズラン(ユリ科)、ケンシラン(ヒガンバナ科)、サクララン(ガガイモ科)、リュウゼツラン(リュウゼツラン科)

これらはランと呼ばれているが花の形態からわかるようにランではありません。



サクララン

*ランの生態



地生ラン



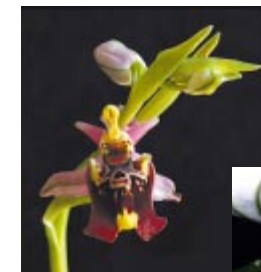
着生ラン

地生ラン 地面に生えて生活しているラン(シュンラン・サギソウ・ネジバナ・ウチョウラン・パフィオペディラムの多くの種類など)

着生ラン 樹の幹や枝、あるいは岩にはりついて生活しているラン。根は乾燥に耐えられるように、水分を吸収しやすく、蒸発しにくい仕組みになって、雨や霧を吸収しています。根が空気にふれている状態です。(カトレヤ・デンドロビウム・バンダなど)

但し同じ属の仲間の中に地生ランと着生ランがあるし、中間型もあります。

*進化するラン



Ophrys



Paph.

虫媒花のランは虫をさそうために工夫を重ねて進化してきました。特定の虫だけに蜜をやり、花粉をつけさせて次の花の柱頭まで運ばせたいと、ランの方で虫を選択してきました。ランの魅力である美しい複雑な形、この背景にはランの生存競争がありました。

そのなかで見返りの蜜を提供しないランもあります。オフリス属Ophrysはヨーロッパにある地生ランです。春先オス蜂が先に現れてメス蜂を探している時期に、メス蜂そっくりの花を咲かせます。唇弁の部分は蜂の腹に似た色と光沢、花弁やガク片は蜂の足や触角に似せて毛を生やしています。花の奥からメス蜂のフェロモンに似た成分まで分泌します。オス蜂は花粉塊のあるところに頭をぶつけ、誘いにのらないメス(オフリス)をあきらめて、次のメスをさがしにいきます。オフリスは相手にする蜂ごとに花の色や形を変え、40~50種に進化していきました。

*バニラはラン科

ケーキやアイスクリームの香料でおなじみのバニラ・エッセンス。これは中南米原産のラン科バニラ属の果実を発酵させ、抽出したものです。バニラはつる性のランで花は淡緑色、直径は6センチほどで一日でしぼんでしまいます。実は豆のさやのようで長さ15~30cmあり、熟すと紫褐色になります。この実を発酵させるとあの甘い香りがしてきます。バニラアイスクリームに黒い粒が入ることがありますが、それはバニラの種子です。



*メリクロン(生長点培養)苗

フラスコの中に発芽や生長に必要な成分が入った寒天培地を入れ、そこに生長点から取り出した分裂組織(メリステム)を植え付けて育てた苗。親と同形質の固体(クローン)が限りなく得られます。シンビジウム、デンドロビウム、カトレヤに応用されたので、安価で優良なものが出回るようになりました。



*無菌発芽苗

ドイツの植物学者の研究によるとランの種子は植物界最小、1粒7マイクログラム(100万分の1g)。胚と種皮だけでできており、発芽の養分となる胚乳をもたないで、土の中にある特殊なカビ(菌根菌)が種子の発芽を助ける栄養素を提供しています。この栄養素の正体が糖と無機養分ということが解明され、人工的な発芽の技術「無菌発芽」で大量生産が可能となりました。



カトレヤ Cattleya (略号: C.)

Cattleya

属名はヨーロッパで最初にカトレヤの花を咲かせたイギリス人のカトレイ氏に由来。気品のある華やかな花色や花姿、甘い香りでランの女王と呼ばれている。さらに美しく丈夫な品種を目指して人工交配がすすみ、近縁属のレリア、ブラッサボラ、ソフロニティスなどとの属間交配が盛んに行われている。開花時期も色々で年間を通じて楽しむことができる。最近は冬の寒さに強い小型のミニカトレヤの人気が高い。花もちちは冬咲き種で3~4週間、他は2週間。

原産地 中南米標高2,000~3,000mの高地。日あたりのよい樹木や岩場に着生。雨季と乾季のわかれている地域に分布。

生育温度 10~25 が適温。冬も8 は必要。夏はできるだけ涼しい場所で管理。夜間の高温に注意。

日あたり 西日や強い直射日光は避ける。春秋は30%遮光し、夏は50%遮光する。

水やり 空中湿度の高い状態を好む。植え込み材料が乾いてから水やり。

肥料 月1回2,000倍の薄い液肥を与える。開花期は与えない。

植え替え 2~3年に1回3~4月に素焼鉢と水ゴケで植え替え。

一般にカトレヤと呼ばれている種類は、基本的に4つの属の間で交配されている。

- C. カトレヤ属 L. レリア属
- B. ブラッサボラ属 Soph. ソフロニティス属



L.C. Drum beat 'Triumph'
ドラムビート'トライアンフ'



C. intermedia marginata
インターメディア マルジナータ



C. Old Whitey 'Mount Empress'
オールド ホワイトティ マウント エンプレス'



C. gaskelliana
ガスケリアナ



C. schroderae
シュロドレイ



Blc. George King 'Serendipity'
ジョージ キング' セレンディビティ'



L.C. Stephen Oliver Fouraker 'Elmhurst' HCC/AOS
ステファン オリバー フォウレイカー' エルムハースト'



Yam. Emerald Valley 'Spring Forest smisoga'
エメラルド バリー' スプリングフォーレスト スミガ'



C. trianaei tipo 'Jungle Queen'
トリアネイ ティボ ジャングル キューン



C. percivaliana var.tipo 'Summitfulos'
パーシバリアナ パー ティボ' サミットフロス'



C. Purple Lynn 'Nice Pertner'
パープル リン ナイス パートナー'



Blc. Hatyai 'Bang-Prom Gold'
ハチャイ' バン プロムゴールド'



Sc. Fairy land 'Happy Field'
フェアリー ランド' ハッピー フィールド'



C. maxima
マキシマ



C. mossiae var.tipo 'Pink Squire'
モシアエ パー ティボ ピンク スクエア



C. labiata var.concolor' Select'
ラビアータ パー コンカラー' セレクト'



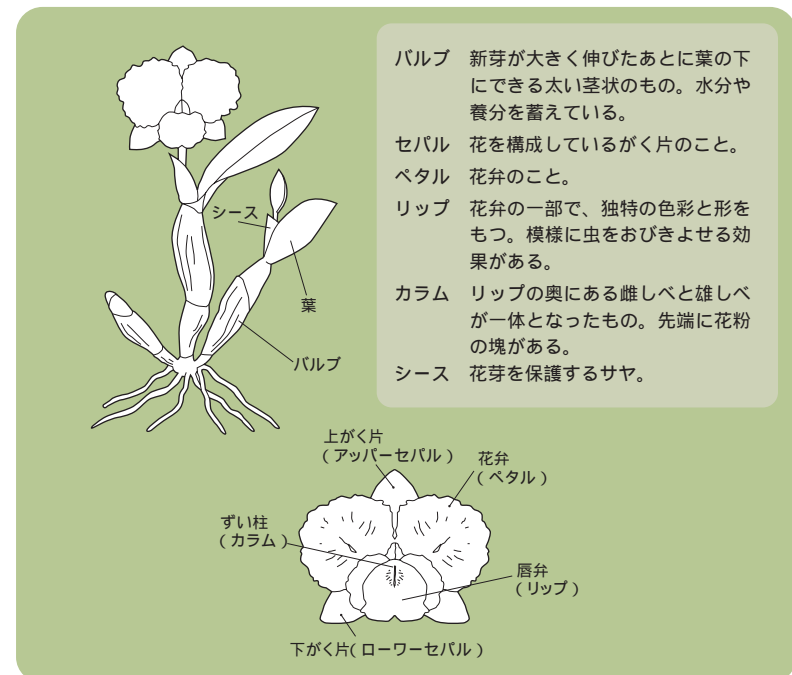
L.C. Red Empress 'Chung Wha' HCC/TOS
レッドエンプレス' チュン ファー'



C. loddegessi
ロディゲシー



C. warneri tipo 'Select'
ワーネリー ティボ' セレクト'



シンビジウム

Cymbidium (略号: Cym.)

Cymbidium

属名はギリシア語「舟」と「形」からなる合成語で唇弁の形に由来。洋ランの中で最も育てられている種類。花色が豊富で豪華な雰囲気なので、ギフト用の鉢花として人気。比較的寒さや乾燥に強く育てやすい。秋、新しい茎(バルブ)の付け根から花茎がのびる。開花時期は11~5月で、花は1本の花茎に10~20輪ほどつき、下の方から咲きあがっていく。花茎を直立させるもの、弓穂状になるもの、下垂するものの3タイプがある。開花期間は長い、1ヶ月くらいしたら切り花にすると株が疲れない。なお一般に東洋蘭として知られているシュンラン、カンランなどは、日本や中国に自生するシンビジウム属である。

原産地 日本で栽培されているものはインド、ミャンマー、タイなどの北部山岳地帯および熱帯アジア高地が故郷。海拔800~1,500mの高地で朝夕涼しく、霧が発生する場所。地面に生えている種、樹木のほころに太く白い根をひろげる種などさまざま。

生育温度 6~28 が適温。冬10 以上で管理すると3月頃開花、冬6~7 だと4~5月頃開花する。

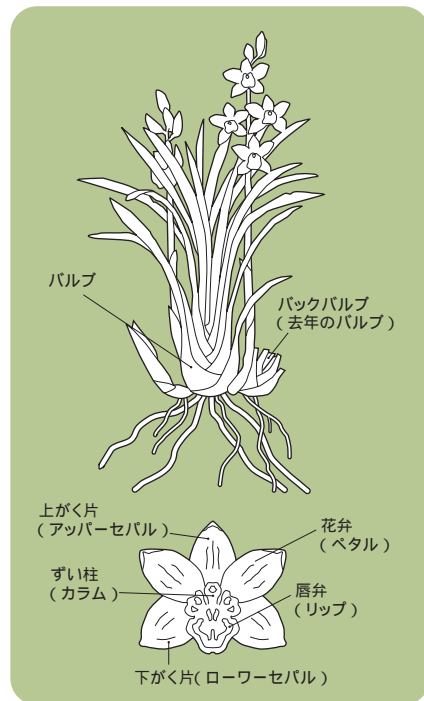
日あたり 日光を好むので、室内では日あたりのよい窓辺に置く。開花中もレースのカーテン越しに光を当てる(遮光30%)。5月頃から天候を見ながら屋外に出していく。風とおしのよい場所で真夏の直射日光や西日は避ける。

水やり 乾いたら与える。水分を好むので3~4日に1回。夏は1日1回くらいだが、鉢の中を過湿にしないように風とおしのよい棚の上などに置く。50%くらいの遮光ネットを張ったり、あまり暗くない木陰で管理するとよい。

肥料 4~6月は毎月1回油かすと骨粉を7:3の割合で混ぜた肥料を置く(1鉢10g)。液肥も月2,3回与える。夏は肥料を与えない。9月液肥のみ与える。10月~3月まで肥料をあたえない。

植え替え 3~5月が適期。鉢から根がはみだした鉢は花が終わったら植え替える。株が大きくなっていたら株分けをする。

芽かき 3~8月新芽がたくさん出てくる。葉ばかり茂らせると花つきが悪くなるので、1つのバルブに新芽を1~3残し、他はかきとる。9月~11月この時期葉芽と一っしょに花芽が出てくる。花芽は5cmくらいに生長するとふっくらして丸みを帯びてくるので、注意して葉芽だけをかきとる。



Cym. Organdy ' Moonlight '
 オーガンディ ムーンライト '



Cym. Great Katy ' Hanako '
 グレートカティ' ハナコ '



Cym. Great Flower ' Ballerina '
 グレートフラワー' バレリーナ '



Cym. Happy Barry ' Sailor Moon '
 ハッピー バリー セイラー ムーン '



Cym. Raspberry ' Mille-feuille '
 ラズベリー' ミルフィーユ '



Cym. Mem Jacqueline Oyston' Icy Princess 1
 メム ジャクリン オイストン アイシー プリンセス 1



Cym. Snow Court ' Shirasagi '
 スノー カート シラサギ '



Cym. Lucky Flower ' Anmitsu Hime '
 ラッキー フラワー' アンミツヒメ '



Cym. Mem Jacqueline Oyston' Icy Princess 2
 メム ジャクリン オイストン アイシー プリンセス 2



Cym. Pink Veil ' Anna Maria '
 ピンク ベイル アンナマリア '



Cym. Lucky Rainbow Lapine Funny '
 ラッキー レインボウ ラピネ ファニー '



Cym. Seaside Crown ' Princess Masako '
 シーサイド クラウン' プリンセス マサコ '



Cym. Melody Fair ' Marilyn Monroe '
 メロディフェア マリリン モンロー '



Cym. Mini Sarah ' Jullian '
 ミニ サラ' ジュリアン '



Cym. Excel ' Lovely Song '
 エクセル' ラブリー ソング '

Dendrobium

デンドロビウム
Dendrobium (略号: Den.)

属名はギリシア語の「樹木」と「生命・生活」の合成語で、多くが樹に着生していることに由来。バルブと呼ばれる太い茎にたくさんの花が咲く。開花期間は3~6週間。花色は豊富でソフト。ラン科の中で最も大きなグループの一つ。このグループは種によって形態、性質がさまざま栽培方法も違うが、すべてが複茎性で着生種。日本にはセッコクが自生する。栽培されているのはノビル系とファレノプシス系が多い。

デンドロビウム・ノビル系 Den.
バルブの各節からごく短い花茎を出し、それぞれに2~3輪の花をつける。

原産地 インド北部からタイ北部、1,000mの高地に自生する。

生育温度 10~28 が適温。日中温度は25、夜間は15。冬は5~8 がよい。花芽をつくるために秋から初冬にかけての2~3週間に5~8の低温にあわせる

日あたり 4~7月の生長期にできるだけ日にあてる。夏は葉焼けを防ぐために30~50%遮光。冬から春はよく日にあてる。

水やり 植え込み材料が乾いたら与える。根が空気に触れることを好むので水ゴケが乾いて白っぽくなったら水やり。夏の夜間の水やりは気温を下げるのでよい。冬は10日に1回。10~11月は花芽をつくるために乾燥気味にする。

肥料 あまり必要としないが、春の生長期に入ったら薄い液肥を施す。

植え替え 鉢から根が出たり、バルブがこみあってきたり、2年以上植え替えをしていない鉢を植え替える。3月中旬から5月、花が終わって新芽が2~3cmに生長してからが適期。花が終わったら花茎を摘む。バルブや芽は残す。

デンドロビウム・ファレノプシス系

Den. Phalaenopsis
通常「デン・ファレ」と呼ばれることが多い。バルブの先端近くから1~3本の比較的長い花茎を伸ばし、たくさんのコチョウランに似た花をつける。切り花としての需要が高い。デンドロビウム属とファレノプシス属との交配種ではない。この2属は属間交配の不可能な遠い間柄である。

原産地 ニューギニア、オーストラリアに自生する種を交配

1年中、高い温度を必要とするのが特徴。冬の最低気温が13、できれば15 必要。

デンドロビウム・キングナム系

Den. kingianum
オーストラリア産の原種で、栽培はノビル系と同じ。



Den. bronckartii
ブロンクカルティ



Den. Daw Maree
ダウ マリー



Den. clavatum
クラバツム



Den. IsexMiwakomachi
イセxミワコマチ



Den. amethystoglossum
アメジストグロツサム



Den. crassinode
クラシノーデ



Den. New Guinea
ニュー ギニア



Den. cumulatum
クムラツム



Den. Thong Chai Gold 'HIF'
トン チャイゴールド 'エイチアイエフ'



Den. aggregatum
アグレガツム



Den. farmeri
ファーマリー

Phalaenopsis

ファレノプシス
Phalaenopsis (略号: Phal.)

属名はギリシア語の「蛾」と「似る」から成る合成語で、英名も「モス オークッド」、日本では胡蝶蘭(コチョウラン)と呼ばれている。微風に揺れている様子は蝶が飛んでいるように優雅である。株元から厚めの葉を広げ、花茎を長く伸ばす。単茎性なので、バルブのかわりに葉に養分をためている。一つの花茎に10~15輪ほどの花をもち、下から上へと咲き上がる。花もちは1ヶ月くらい。豪華なギフト用は寄せ植えになっている場合が多い。比較的寒さに強く育てやすいのはミニコチョウランと呼ばれているアマビリス系。

原産地 台湾、インドネシア、ボルネオ、フィリピンなどの熱帯、亜熱帯地域の樹木に着生している。1年中気温、湿度が高く、風とおしがよく、直射日光の入らない明るい場所。

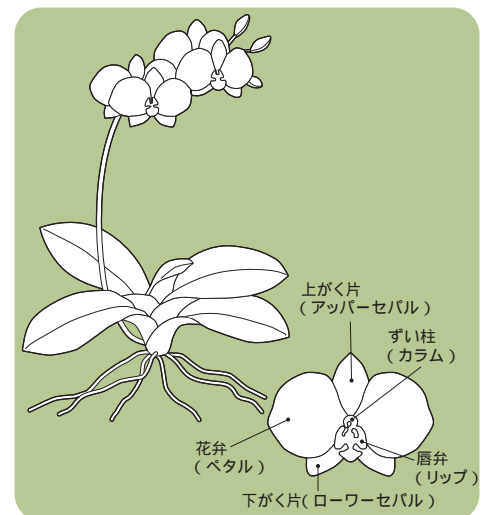
生育温度 20~25 が適温。暑さには強いが耐寒性がなく、最低温度は10。低温が続くと株が衰弱して枯れてしまうので、冬は保温につとめる。18 以上になったら屋外へ出す。

日あたり 5~10月は50%遮光、真夏は60~70%遮光。強い直射日光を嫌う。冬の室内でもレースのカーテン越し(30%の遮光)のやさしい光をあてる。

水やり 原産地では樹木に着生しているため、根は空気にふれて乾いている。植え込み材料が乾いてから水やりをする。風通しが悪いと病虫害が出やすくなる。

肥料 最低温度が15 以上になる初夏から2000倍の液肥を月2回ほど与える。10月になったらやめる。

植え替え ギフト用は寄せ植えになっている場合が多いので、花が終わったら1株ずつ植え替える。植え替えの時期は3月中旬~5月上旬。2年に1回ほどが目安である。



Phal. Matoy Stripe 'Matoy' AM/Dsros
マトイ ストライプ 'マトイ'



Phal. Orchid World 'Ching Hia' AM/AOS
オーキッド ワールド 'チン ファ'



Phal. ambonosa
アンボノーサ



Phal. mariae
マリアエ



Phal. sumatolana
スマトラナ



Phal. parishii
パリシイ



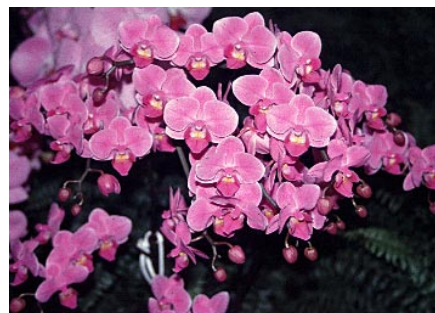
Phal. Golden Emperor 'Sweet' FCI/ACE
ゴールデン エンペラー 'スイート'



Phal. leuchoroda
レウコロダ



Phal. pinlong princess 'Ruby Queen'
ピンロング プリンセス 'ルビークイーン'



Phal. Little Mary
リトル マリー

Paphiopedilum

パフィオペディラム

Paphiopedilum (略号: Paph.)

属名は女神アフロディテのキプロスでの呼称「パフィオ」とギリシア語の「サンダル」の合成で、唇弁の形による。英名は「レディズ スリッパ」。花色は地味だが渋くて味わいがあり、食虫植物のように唇弁が袋状になった花姿は独特の雰囲気がある。花の寿命は長い。新芽が株のわきにはえてくる複茎性である。種によって葉の形態が多様で、葉の模様、葉の厚みに違いがある。絶滅の危機に瀕した動植物を保護する「ワシントン条約」に指定されており、原種、交配種、フラスコ苗も輸出入が禁止されている。

原産地 インド、ミャンマー、タイ、ベトナム、フィリピン、インドネシア、ニューギニアなどアジアの熱帯や亜熱帯地域に自生。高温多湿な森林地帯の樹木の根元や岩場に地生、一部は半着生または半地生。直射日光がほとんど入らない明るくて風とおしのよい木陰

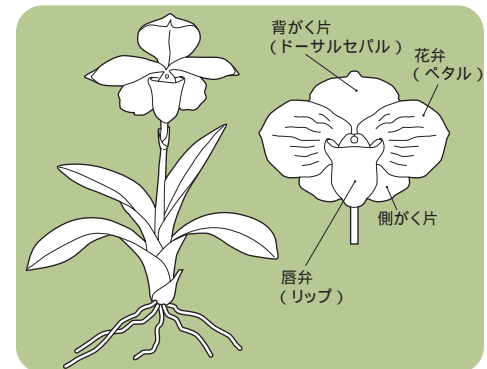
生育温度 10～25 が適温。生長期に日中暖かく夜は涼しい場所で育てると花芽が出やすくなる。

日あたり 直射日光は厳禁。50%の遮光が必要。斑入り葉系は70%遮光した光を毎日5～6時間あてる。

水やり 比較的水を好むので、春から秋は植え込み材料の表面が乾いたら水を与え、冬はやや控えめにするが、完全に乾かしてしまう事がないようにする。梅雨時と秋の長雨にあてないようにする。軟腐病になるので水やりの時株の中心に水をためない。

肥料 根は他の洋ランと違い淡い褐色で、表面は細い毛根におおわれている。根は少ない。肥料焼けしやすく、根腐れをおこしやすいので量も回数も少なくする。生長期の春から初夏にかけて月に1回薄い液肥（2000～3000倍）をあたえる。

植え替え 植え込み材料に水ゴケを使っている場合は1年おきに植え替える。新芽や根が伸び始める前に、冬咲き種は花が終わった3～5月、夏咲き種は9～10月中旬が適期。



Paph. Western Thunder 'WaHz' BM/JOGA 'ウエスタン サンダー' 'ワレット'



Paph. Magic Lantern 'マジック ランタン'



Paph. Spring Tree 24 'スプリング ツリー-24'



Paph. Tsuya Ikeda 'ツヤ イケダ'



Paph. Red Beauty 'Bion' AM/AOS 'レッド ビューティ' 'バイオン'



Paph. Pure Lime 'Green Bare' 'ピュア ライム' 'グリーン バレー'



Paph. bellatulum 'Tsukimino' BM/STOS 'ベラチュラム' 'ツキミノ'



Paph. Laser Dark HsinyingxJelly Roger 'Aloft' Selected 'レイザー ダーク ヘイシングxジェリー ロジャー アロフト セレクトッド'



Paph. Mercedes Gallup 'Chisako' 'メルセデス ギャラップ' 'チサコ'



Paph. rothschildianum 'Tree top' HCC/AJOS 'ロスチャイルディアナム' 'ツリー トップ'

Oncidium

オンシジウム

Oncidium (略号: Onc.)

属名はギリシア語の「こぶ」で、唇弁の基部にこぶ状の隆起があることに由来。英名は「ダンシング レディ オーキッド」、女性がスカートを広げて踊るようなので名づけられた。日本名は「ムレスズメラン」。長く伸びた花茎に小さな花が軽やかに咲く。切り花として人気がある。花の寿命は約3週間だが、下から咲きあがってくるので2ヶ月間ほど楽しめる。花が終わったら、花茎を元から切る。オンシジウムは草姿と性質から以下のように大別される。

薄葉系 パルブが卵形。薄く細長い葉。冬季最低温度は8。初心者向き。

厚葉系 パルブのあるもの、ないものがある。葉は多肉質。冬季最低温度は10、乾かし気味にする。

剣葉系 パルブがなく葉は剣状または鎌状。風通しのよい場所が適しているので、ヘゴづけや、コルクづけで育てると生育がよい。年間を通して高温多湿を好む。冬季最低温度は13。

棒状葉系 排水のよい乾燥した場所を好むので、ヘゴづけで育てる。日光を好む。冬季最低温度は15以上。

原産地 中南米メキシコからブラジルの高地など樹木の幹や枝に着生。

生育温度 15～20 が適温。最低10以上あれば生長する。7～8まで下がると休眠する。5

以下は株が枯れる。薄葉系は温室がなくても栽培できる。厚葉系や剣葉系は特に寒さに弱いので段ボールをかぶせて保温。温度が保てない場合は、乾かし気味にして霧吹きで湿度を保つ(シリジ)。

日あたり 春～秋の生長期には5～6時間日にあてる。年間を通して30～50%遮光した光をあてる。とくに薄葉系は葉焼けしやすい。

水やり 植え込み材料全体が乾いたら与える。完全に乾いているときと湿っているときが交互に必要な。鉢も株より小さめの鉢を使う。冬季15以上だと冬でも成長するので通常の水やりをする。

肥料 着生ランなのであまり必要としない。春、新芽が出てから生長期の秋にかけて毎月2回ほど薄い液肥を与える。冬でも15あれば生長を続けるので冬でも液肥を与える。

植え替え 2～3年に1回、新芽がまだ小さく、根が伸びる前におこなう。新しい水ゴケで根を包むように鉢に入れ、隙間にも水ゴケをつめこむ。



Onc. obrizatum 'オブリザタム'



Onc. Sherry Baby 'Sweet Fragrance' 'シェリー ベイビー' 'スイート フレグランス'



Onc. kratumbum 'クラツンバム'



Onc. crispum 'クリスプム'



Onc. Kinsei No.2 'キンセイ ナンバー2'



Onc. forbesii 'フォルベシイ'



Onc. Barbie 'Strawberry Delight' 'バービー ストロベリー デライト'

Vanda

バンダ

Vanda (略号: V.)

属名はサンスクリット語で「バンダ・テッセラータ」と呼ばれていたことによる。美しい鮮やかな花色で、花弁は大きい。左右に広がる葉を持つ種類と棒状の葉を持つ種類がある。茎は直立し、上へ上へと生長していく単茎性である。太い根を空中に長くたらし、スポンジ状の厚い細胞に包まれた根で空気中の水分を吸収する。

根は空気に触れることを好み、植え込み材料は使わず、ヘゴ仕立てや木のバスケットや素焼き鉢に入れて育てられることが多い。

原産地 東南アジアを中心としたインド、タイ、フィリピン、タイなどの熱帯、亜熱帯に高い樹木に着生している。多くは海拔1000～1500mの場所に自生。

生育温度 17～30 が適温。冬季最低温度は15 なので、保温設備がないと栽培が難しい。

日あたり 5～10月上旬は屋外。ただし真夏の直射日光や西日をさけて50%くらい遮光する。木陰につす場合光の強さに注意。

水やり 6～9月は生育期なので、1日1回根をふくめて株全体に水をかける。それ以外は根が乾いて白くなったら与える。霧吹きをして、保湿につとめる。空気にふれることが好きなランである。

肥料 生長期の6～9月毎月2回ほど薄い液肥(2000～3000倍)を与える。最低温度が15 以下になったらやめる。



V. Belenice Miller 'Sophia' ベレニス ミラー 'ソフィア'



V. Rasii Gold ラジイゴールド



V. Fuchs Kosy x V. katsuura 'Charm' フュークス コージー x カンウラ 'チャーム'



V. boxalii ボクサライ



V. Gordon Dillon x V. Chinavat ゴルデン ディロン x シナバット



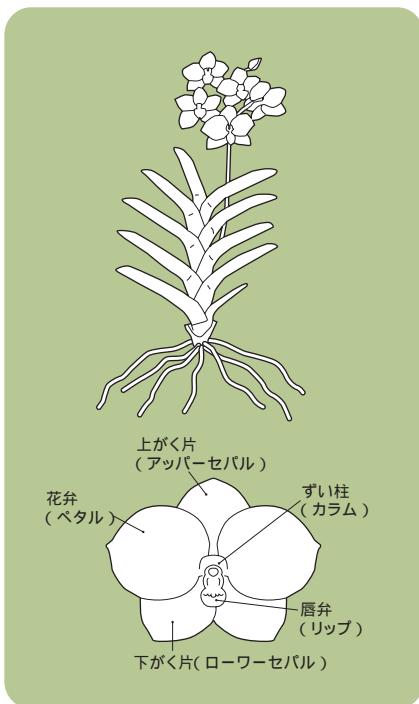
V. Fuchs Delight フュークス デライト



V. Inthanond Blue インタノンド ブルー



V. lamellata ラメラータ



Lycaste

リカステ

Lycaste (略号: Lyc.)

属名はギリシア神話に登場するトロイアの美しい王女リカステの名に由来。色あざやかで美しいガク片は大きくて、花弁や唇弁が小さく、花全体が三角形に見える。卵型のバルブの下のほうから花茎を伸ばす。バルブの頂部にエビネのような葉をつける。落葉したときバルブの上のトゲに注意。

原産地 メキシコからペルー、ボリビアのアンデス山系の高地に自生。樹木に着生しているが、地生種もある。

生育温度 15～25 が適温。30 以上の熱帯夜が続くと株が衰弱する。

日あたり 室内ではレースのカーテン越し、5月から夏にかけて屋外で50～60%遮光。葉焼けを起こしやすいので強い西日にあてない。

水やり 根が細く水を好むので、新芽が伸びはじめるころから、落葉するまで水をたっぷり与える。その後は水やりをひかえる。

肥料 5～6月に液肥(1000倍)を2回与える。植え替え 2～3年に1回。新芽が伸びてくる3～5月が適期。



Lyc. aromatica アロマティカ



Lyc. Elizabeth Powell エリザベス パウエル



Lyc. Elizabeth Powell 'Yoko' BM/NIOS エリザベス パウエル 'ヨコ'



Lyc. Shoal haven ショール ヘブン



Lyc. Shoal haven 'Kasahara' ショール ヘブン 'カサハラ'



Lyc. skinneri x macrophyllum スキンネリ x マクロフィラム



Lyc. Barbara Sander x Lyc. Shoal haven 'Sakura' バーバラ サンダー x ショール ヘブン 'サクラ'



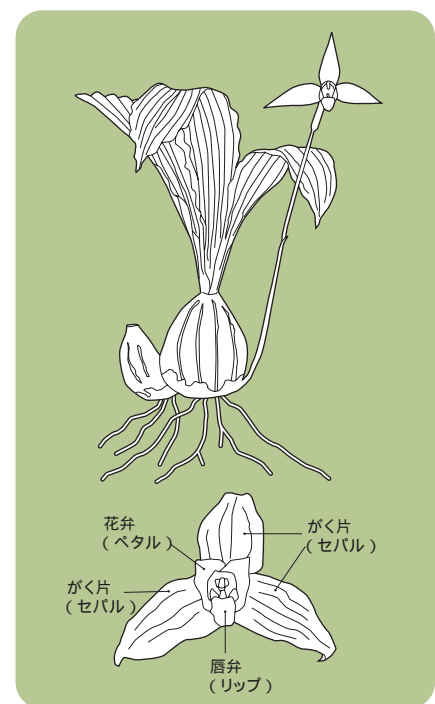
Lyc. Ballyaex Max. tenuifolia バリエ x マキシラリア テヌイフォリア



Lyc. Virgo 'Bristol' ビルゴ 'ブリストル'



Lyc. brevispathax x Lyc. michelli ブレビスパータ x ミチェリー



Miltonia

ミルトニア
Miltonia (略号: Milt.)

属名はランの収集家であったミルトン子爵に由来。唇弁が大きく広がって、パンジーの花に似ているので英名は「パンジー・オーキッド」といわれる。複茎性の着生ランで、葉とバルブの間から長い花茎を出す。開花時期は初夏。

原産地 中央アメリカ南部～南アメリカ高地の森林の樹木に着生。

生育温度 適温は15～25。暑さに弱く28以上は耐えられないが、冬は5以上あれば越冬する。夏は冷房のきいた部屋で冷風が直接あたらない所に置く。

日あたり 夏は60～70%、春と秋は30～50%遮光。

水やり 5～9月の生育期にはたっぷり与える。最低気温が10以下になったら乾いたあと、さらに1～2日待ってから与える。

肥料 生育期に月2～3回薄い液肥(2000～3000倍)を与える。最低気温が10以下になったらやめる。

植え替え 水ゴケがすぐに傷むので2年に1回、9月中旬頃に植え替える。



Milt. spectabilis var. moreliana 'King of Wine' スペクタビリス パームレアナ キング オブ ワイン'



Milt. spectabilis 'Carl SM/JOGA' スペクタビリス 'カール'



Milt. ピンク



Milt. spectabilis alba 'Virginalis' スペクタビリス アルバ 'ヴァージナリス'



Milt. phalaenopsis ファレノプシス



Milt. 赤



Acanthephippium mantinianum アカンセフィピウム マンティニアナム



Grammatophyllum scriptum 'Hinimanu' グラマトフィラム スクリプタム 'ヒビマヌ'

Others



Angraecum didieri アングレカム ディディエー

洋ラン Orchids

Orchids

栽培のポイント ひとくちメモ

*** 植え込み材料(コンポスト)について**
普通の土は使わず、通気性のよい植え込み材を使います。

洋ラン用培養土 軽石・パーク・ヤシガラが混合されたもの。品種別に配合されているので初心者向きです。

水ゴケ 使用する時十分湿らせてから軽く搾ります。腐るので2年たったら植え替えます。

パーク 樹皮を砕いて発酵させたもの。大型種に使用します。排水、保水性があります。一昼夜水につけてアクを抜きます。腐りにくいので3～4年はもちます。

ヤシガラチップ ヤシの実の繊維部分を細切りにしたもの。一昼夜水につけてアクを抜き、軽石と混ぜて使います。水ゴケより多湿になりやすいので注意します。

軽石 岩を高熱で焼いてから冷たい水をかけて作ったもの。細かい砂をふるって使います。

*** 鉢について**
やや小さめの鉢を使うのがコツ。コンポストとセットで組み合わせます。

素焼き鉢 通気性・吸水性・排水性がよく乾きやすいので、水ゴケと組み合わせます。着生ランに向きます。

駄温鉢 吸水性がないので乾燥が遅く、湿気を好む地生ランに向きます。

プラスチック鉢 乾きにくく、軽く扱いやすく、シンビジウムやバフィオペディラムなどの地生ランを水ゴケで育てるのに向きます。パークやヤシガラや軽石などで着生ランを育てるのもよいです。



ヘゴ板 ヘゴシダの幹を板状に切ったもので根を付着させて栽培します。通気性がよく乾きやすいのでデンドロビウムやカトレヤやバンダなど着生ランや下垂性の種類に向きます。

バスケット 木枠のこと。通気性が優れているので着生ランに向きます。とくにバンダに向きます。

*** 春～秋の管理**

種類によって必要な遮光の度合いや日照時間が違うので、葉焼けや日光不足にさせないように注意します。戸外で育てるときは、直接コンクリートや地面に置かないで、棚やブロックの上に載せます。光の量については、明るい木陰は遮光50%くらい、半日陰は遮光30%くらいです。市販の遮光ネットを組み合わせ調整します。遮光ネットを張ることのできる棚があると便利です。適当な木があれば、枝につるしておくのもよいです。

*** 冬の管理**

品種によって越冬温度が決まっているので注意しましょう。昼間は日あたりのよい窓辺で、レースのカーテン越しの光にあてます。夜間は部屋の中ほどに移動させますが、暖房の温風が直接あたらない場所におきます。空気が乾燥していたら、霧吹きで葉水をやりまわす(シリンジ)。部屋の温度を測り、最低温度になりそうだったら、ダンボール箱や毛布、小さなホットカーペットで保温します。温度が十分保てない場合は、水やりを控え耐寒性を増加させます。

*** 病虫害**

日あたり、風とおし、湿度、温度の環境を整え、早期予防につとめます。専門の本で調べるか、ラン専門店ですたねましょう。

病気は軟腐病、ウイルス病、炭そ病、黒斑病、ボトリチス病など。

害虫はハダニ、ナメクジ、アブラムシ、カイガラムシなど。

*** ラベルは洋ランの戸籍**

ラベルの記入の仕方には一定のきまりがあります。見方がわかればその株の歴史を知ることができます。

ラベル1 原種

C. walkeriana var. semi-alba

カトレア属の原種ワルケリアナの変種で、セミアルバタイプ(白色が主で少し色が入っている)である。

ラベル2 交配種

Phal. Golden Emperor Sweet FCC/AOS

ファレノプシス属のゴールデンエンペラーという交配種のスイートという個体で、AOS(アメリカ蘭協会)のFCC(First Class Certificate-100点満点中90点以上)の評価をつけている。

ラベル3 未登録種

Lyc. BallyaexMax. tenuifolia

リカステ属のバリエ(母親株)とマキシリア属のテヌイフォリアとの交配だが未登録である。柱頭の方の種名(母親株を先に、花粉をとった方の種名(父親株)をあとに書く。

*** ワシントン条約**

1973年に採択された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」という国際条約のことで、日本は1980年になって60番目に批准しています。ラン科植物はこの条約上ほぼすべての種が規制対象となつて輸出入を禁止されています(人工的に増殖されたものや学術調査対象のものは除く)。ランは自生地での生育密度が低く、自然条件下での繁殖速度も遅い植物です。また環境破壊の影響も受けやすく、日本でも絶滅危惧植物の調査がおこなわれ、大多数のランがレッドデータに載せられました。

*** 世界らん展日本大賞**

東京ドームを会場に世界20ヶ国から約80,000株のランが展示される祭典です。時期は毎年2～3月、期間は9日間くらいです。2001年の「日本大賞花」は「リカステ スキンネリ マウントオクイオウ」でした。今回は個別審査部門・上位3賞をアマチュアが受賞し、アマチュアがプロにまけない栽培技術をもっていることが証明されました。ラン愛好家の裾野が毎年確実に広がり、今年も入場者は40万人を越えました。